

## ② 針刺し損傷時の受診 フローチャート

## 夜間・休日対応用

### 感染性体液とは

血液、血性体液、精液、膣分泌液、脳脊髄液
関節液、胸水・腹水、心嚢液、羊水
以下のものは、外観が非血性であれば 感染性なしと考える
便、尿、鼻汁、痰、唾液、汗、涙

**必要書類3通**  
**針刺し損傷情報提供書**  
**必ずご持参ください**  
その他下記書類⑤⑥

### 受診時の持ち物

- ① 苫小牧市立病院の診察券
- ② マイナ保険証または資格確認書
- ③ お薬手帳（あれば持ってくる）
- ④ 針刺し損傷情報提供書
- ⑤ 抗HIV薬予防内服決定チャート  
・記載しておく
- ⑥ 抗HIV薬予防服用同意書  
・服用する場合に記載する

### 一般医療機関・受傷者の対応

**針刺し・切創及び皮膚・粘膜曝露が発生!!**

**直ちに曝露部位を大量の流水で十分洗浄する**

自施設の責任者へ報告  
紹介受診手続き  
**Dr to Drで連絡**

夜間・休日  
苫小牧市立病院 0144-33-3131  
**日当直医へ電話**

受傷者はすみやかに受診する

救急・夜間受付へ

受診手続き

**\* 救急・夜間受付に針刺し損傷情報提供書と抗HIV薬予防内服決定チャートを提出する**

医師は救急外来リーダーNsに連絡

受傷者が来院

救急・夜間受付

針刺し損傷情報提供書と  
抗HIV薬予防内服決定チャートを受け取る

**\* 抗HIV薬を服用する場合があるので  
速やかに対応**

救急外来で診察

抗HIV薬を服用する場合

- ・妊娠の有無を確認
- ・同意書にサイン
- ・依頼書作成

薬剤部へ連絡（7066）  
予防薬の準備・説明・服用

**第1回目をできるだけ早く服用**

救外Ns

- ・基本伝票にエビネット印を押す
- ・受傷者の受診時の持ち物④⑤⑥を回収し、診察準備をする
- ・抗HIV薬を服用する場合は抗HIV薬予防服用説明書を準備する
- ・医師の指示で採血を実施する
- ・抗HIV薬を服用した場合は日当直師長に報告

会計

平日のはやい内に1階 18番  
「交通事故・労作受付」で行う

### 診察医師

1. 針刺し損傷情報提供書を確認
2. 受傷者の血液感染症の有無を調べる
3. 曝露源の血液感染症の有無を確認する  
\* 自施設で検査している場合は、後日データを確認  
\* 曝露源不明として扱うかを判断する
4. 抗HIV薬の緊急内服の必要性を判断する  
・抗HIV薬予防内服決定チャート確認  
・女性は妊娠の有無を確認  
・最高3日分まで  
・抗HIV薬予防服用同意書・依頼書記載  
・抗HIV薬予防服用説明書で説明し、渡す  
・処方：薬剤部に連絡

**\* 服用する場合は第1回目をできるだけ早く服用**

5. HBs抗体がない場合は、ワクチンやHBIGの検討
6. 次回受診、抗HIV予防薬を用いる場合は  
内服期間についても説明

**\* 基本的な服用期間は4週間(28日間)**

\* 採血オーダ

<オーダ入力方法>

1. 検査→針刺しセット(職員・院外)の選択  
(血清保存1年間)
2. HIV予防薬内服者はHIV内服セットオーダを追加

日当直師長：平日対応内容

抗HIV薬：感染制御室に使用したことを連絡

会計：1階「交通事故・労災受付」に報告する

\* 診察にかかる費用は、自費扱いとし、当院の請求に基づき、事故が発生した医療機関が支払う

抗HIV薬の内服は可及的速やかに（可能であれば2時間以内）

苫小牧市立病院